



2022年4月28日

各 位

会 社 名 株式会社ダスキン  
代表者名 代表取締役 社長執行役員 山村 輝治  
(コード番号：4665 東証プライム市場)  
問合せ先 執行役員 経営企画部長 江村 敬一  
電話 06-6821-5071

### 取締役会の実効性に関する評価結果概要についてのお知らせ

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値向上を図ることを目的として、取締役会全体の実効性に関する分析・評価を実施いたしましたので、その結果の概要について下記のとおりお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 分析・評価の方法

- (1) 取締役会は、すべての取締役、監査役に取締役会全体の実効性に関する分析・評価を実施する趣旨等を説明、理解を得た上で、第三者機関によるアンケートを実施いたしました。

実施期間	2021年12月23日～2022年1月13日
評価対象期間	2021年4月～2021年12月に開催した当社取締役会(全13回)
アンケート質問概要	構成、運営、議論、モニタリング機能、取締役・監査役に対する支援体制、トレーニング、株主(投資家)との対話、自身の取り組み、委員会等の運営等

- (2) アンケート結果集計の後、取締役会から諮問を受けた「社外役員会議」(独立役員に指定している社外取締役全3名・社外監査役全3名で構成される会議)が、集計結果を基に、対象期間における取締役会の取り組みについて多角的視点から分析・評価を実施し、取締役会に対して、2022年3月期中の総括及び2023年3月期に取り組むべき課題の提言を実施いたしました。

- (3) 社外役員会議からの提言を基に、更なる実効性向上に向けて取締役会にて討議いたしました。

#### 2. 評価結果の概要

分析・評価実施期間	2022年2月8日～2022年3月23日
取締役会の実効性について	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 取締役会では、十分な審議を基に当社グループの経営上の重要事項の決議がなされている。</li><li>・ また、重要事項の意思決定を行うだけでなく、経営課題についての議論に多くの時間が割かれ、その時間の割合が増加している。</li><li>・ 更に、中長期的な経営戦略を討議する経営戦略会議に全メンバーが出席し、積極的に意見具申する等、建設的な議論を行っている。</li><li>・ 社外取締役が社内取締役と経営課題認識を共有化するために、社外役員会議において、社内取締役と個別に意見交換を行っている。</li><li>・ 執行役員会議、予算進捗会議等、業務執行上の重要な会議には、執行役員兼務の取締役のみならず、社外取締役も必要に応じてオブザーバーとして参加し積極的に意見を述べる等、業務執行の監視、監督面の実効性は確保されている。</li><li>・ 取締役会の諮問機関である各種委員会・会議は、透明性、客観性が確保され、適正に機能している。</li><li>・ 毎年、前年度評価を行い、課題を抽出した上で、更なる実効性向上に向けた取り組みにも努力している。</li></ul>

(1) 前年度の課題に対する取り組み状況

2022年3月期の課題		取り組み状況
企業価値向上に向けた戦略等に関する議論を充実させ、監督機能の実効性を高める。	成長戦略をより明確化し、事業ポートフォリオの適正化と重点施策の着実な実行が図れるよう、取締役会の監督機能を更に強化する。	①経営戦略会議において、事業単位でのポートフォリオの監督を実施 ②取締役会では、討議の時間を設け、全社視点から事業の選択と集中の議論を加速
	社会環境変化に対して自社の強みをどの分野でどの様に活かすのかを、DX推進やバリューチェーン全体の強化策と併せて実施されるように監督する。	DXの推進に向けて ①RFIDと連動したスマートファクトリー化に向けた大規模な投資を決断 ②クラウドシフト専任組織を本社企画グループ担当執行役員傘下に設置し、全社的な取り組み体制を構築
	取締役会メンバーを含めた今後の経営人材像の議論・検討・育成を加速し、経営体制に反映させる。	①取締役会の諮問機関である取締役評価検討会において、次期経営人材像の議論を重ね、スキルマトリックスの提示に向けた検討を実施 ②社外役員会議においても、社内取締役と将来の経営人材像についての意見交換を実施

(2) 2023年3月期の取り組み

当社取締役会は、今後も取締役会全体の更なる実効性の向上を目指した不断の議論を継続してまいります。2023年3月期につきましては主に以下について取り組んでいくことといたします。

取締役会は、企業価値向上に向けて、戦略に沿った施策のモニタリングを実施し、迅速・的確に分析・判断・指示することで、経営による事業の監督の充実を図る。	①成長への回帰を確実に実現していくことを目的として、PDCAを回し易くするために、多岐に渡る事業の業績評価単位を、収益モデルや競争環境、バリューチェーンを踏まえた事業群別へと見直しを実施する。 ②経営戦略に沿ったKPIを設定し、モニタリング及び議論の充実を図る。
----------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

以上

本件に関する報道機関からのご照会は、以下へお願い申し上げます。

株式会社ダスキン 広報部 電話06-6821-5006